

3. 肉用鶏農家で発生したリステリア症と *Listeria monocytogenes*のSerogroupによる分類

秋田県中央家畜保健衛生所

○佐藤 龍、菅野 宏



【はじめに】

リステリア症は*Listeria monocytogenes*（以下Lm）による感染症で主に牛・羊に発生し、鶏における発生報告は少ない。今回、管内の養鶏場において神経症状を呈する個体が認められ、リステリア症と診断したので、その概要を報告する。

【発生状況】

平成27年5月、管内の肉用鶏約700羽を飼養する平飼い養鶏場で85日齢の6羽が斜頸、旋回及び沈うつを呈し、うち3羽の死亡を確認した。

【材料及び方法】

衰弱鶏3羽を材料として病性鑑定を実施した。病理組織検査は主要臓器及びF囊を用いて定法によりHE染色及びグラム染色を実施した。また、免疫組織化学検査として抗Lm4b抗体及び抗伝染性ファブリキウス囊病ウイルス（以下IBDV）抗体について実施した。細菌検査は主要臓器を用いて定法により分離培養を実施し、飼料及び飲水についてはUVM I 培地、フレイザー培地で2段階増菌培養後、PALCAM寒天培地で分離培養を行った。分離菌を市販同定キット及び*iap*遺伝子を標的としたPCRで同定後、市販免疫血清による血清型別及びPCR法を用いたSerogroupによる分類を実施した。

【結果】

剖検では主要臓器に著変はなかった。病理組織検査では、小脳にグラム陽性桿菌による壊死性化膿性脳炎が認められ、同部位において抗Lm4b抗体に対する陽性抗原を確認した。また、F囊に濾胞の萎縮とマクロファージの浸潤が認められ、同部で抗IBDV抗体に対する陽性抗原を確認した。細菌検査では、脳から純培養的に、肝臓及び脾臓からは少量のグラム陽性桿菌を分離した。分離菌を同定キット及びPCRによりLmと同定した。以上の結果から、本症例をリステリア症と診断した。血清型別は、O抗原因子は混合V/VI血清で陽性、VI、VII、VIII、IX血清では陰性であり型別不能だった。Serogroupによる分類は、血清型4b、4d及び4eが属するSerogroup II.1に分類された。

【まとめ】

神経症状を呈した鶏の脳、肝臓及び脾臓からLmが分離され、小脳では病変部に一致してLm血清型4b抗原が認められた。本症例はIBDVの関与により、免疫機能が低下したことでのLmの感染を誘発し、鶏では稀なリステリア症が発生したと推察した。飼料及び飲水からの分離は陰性であり感染源は不明だった。分離菌はSerogroup II.1に分類され、PCR法を用いたSerogroupによる分類は、型別不能株をグループ分けすることが可能であり、血清型の推定に有用であると考えられた。